

【防災訓練】 予告

もし、明日にでも首都直下地震が起きたら

あなたは自分の身を守れますか!?

4月14日夜と16日未明に最大震度7を観測した熊本地震の震源である布田川断層帯・日奈久断層帯は、地震学会が発表した30年以内にM7.0程度の地震が発生する確率は0%~6%でした。多くの住人は地震の危険を感じていませんでした。

1995年の阪神淡路大震災の火災による家屋喪失、2011年の東日本大震災では津波による家屋喪失、今回の熊本大地震では度重なる地震による家屋の倒壊が多く、ライフラインの復旧の遅れもあって、今なお37,000人が避難所で避難生活を与儀なくされています。

もし、同様な震災が氷川台自治会を襲ってきたらどうなるでしょうか。

東京都では、30年以内にM7程度の地震が70%の確率で発生すると予測されている首都直下型、東久留米市近くには、地震規模はM7.4程度、地震発生確率は30年以内が0.5%~2%、50年以内が0.8%~4%、100年以内が2%~7%となっており、日本の主な活断層における相対的な評価では「やや高いグループ」に属している立川断層を抱えています。しかし、立川断層帯はまだまだ不明な点が多い断層です。大切なことは、いつ、どのように起きるか分からない地震に備え、日頃から家の耐震化や家具の転倒防止などの防災対策をしっかりとすることです。

氷川台自治会、防災会では防災対策を根本的に見直し、会員の安心・安全を最優先に“もし震災が襲ってきたら…”、“身の安全をどのように守るか…”、“ライフラインが遮断されたときの対応は…”など、皆さんと一緒に地震発生の瞬間から避難~生活再建までをシュミレートして最善の対策(家屋の耐震対策・家具の転倒防止・通電火災対策・食料備蓄・災害弱者の避難所確保等)を講じたいと思います。

今回の防災訓練は、その手始めとして、[東京防災]をテキストに、当自治会環境に最適な防災対策をピックアップして、防災のプロである東久留米消防署・消防士に解説していただき、合わせて三角巾外傷手当・AED訓練を実施いたします。